

平成17年7月の解説（週間天気予報）

【7月の天候状況】

月半ばまでは、梅雨前線が本州付近に停滞したため、北日本から東日本・西日本にかけては曇りや雨の日が多くなりました。一方、南西諸島では太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。月半ばから下旬前半にかけては、上空に冷たい空気を伴った低気圧が北日本付近に停滞したため、北日本では曇りや雨の日が多くなりましたが、東日本、西日本では晴れて暑い日が続きました。26日から27日にかけて、台風第7号が日本の南海上から接近して房総半島をかすめ三陸沖を北上したため、北日本、東日本を中心に大雨が降り、暴風が吹きました。

月を通してみると、日照時間はほぼ全国的に平年より少なく北・東日本の太平洋側では平年の60%以下となった観測地点もありましたが、南西諸島では平年より多くなりました。降水量は、ほぼ全国的に平年より多く、北・東日本の太平洋側や西日本の日本海側を中心に平年より120%を超えた観測地点が多くなりましたが、北・東日本の日本海側や西日本の太平洋側の一部で70%に満たない観測地点もありました。月平均気温は北日本では平年より低く、太平洋側の一部では平年より1℃以上低い観測地点もありました。東日本と西日本ではほぼ平年並みでした。

【7月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年（注）より5ポイント高い69%でした。北海道地方、東北地方、北陸地方では1から2ポイント低くなりましたが、その他の地方では高く、特に四国地方では10ポイント、九州北部地方では11ポイント、沖縄地方では17ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.1℃小さい2.6℃で、特に東海地方、北陸地方、九州北部地方では例年より0.4℃から0.5℃小さくなりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.2℃小さい1.6℃でした。特に北海道地方、北陸地方、中国地方では0.4℃から0.5℃小さくなりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7月の週間天気予報から】

7月9日から10日にかけて、低気圧が日本海を北東に進み、東日本や西日本を中心に広い範囲で雨が降りました。低気圧が日本の東海上に進んだ後、梅雨前線は南下し東日本から西日本に停滞しました。この前線は、次第に活動が弱まり17日頃にはゆっくり北上しながら消滅しました。これにあわせて18日には関東甲信地方に梅雨明けを発表しました。

8日発表の東京地方を含む関東甲信地方の週間天気予報（予報対象期間9日から15日まで）では次のように予想しました。9日から10日にかけて低気圧が通過し雨。その後梅雨前線が本州付近に停滞するが、11日と13日には前線上の別の低気圧が関東地方を通過して広い範囲で雨。そのほかの日は前線の活動が弱く曇る程度。

実際も予想されたとおり、梅雨前線は東日本から西日本にかけて停滞して、低気圧は 11 日から 12 日にかけてと 13 日を通り、15 日頃から前線の活動は次第に弱まりました（図 1～図 3）。ところが、関東地方の北部と南部とでは天気が大きく違いました。北部の宇都宮では連日、雨が降りましたが、南部の東京では曇りがちで日照時間も少ない日は続いたものの雨は降りませんでした（図 4、図 5）。

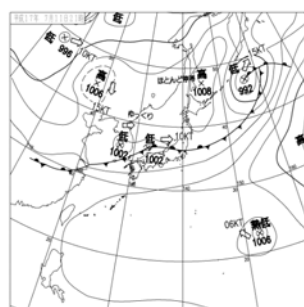


図 1 2005 年 7 月 11 日 21 時の地上天気図

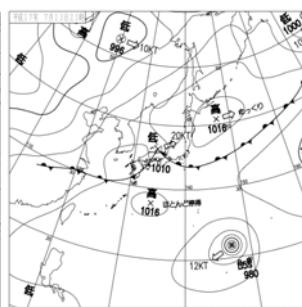


図 2 2005 年 7 月 13 日 21 時の地上天気図

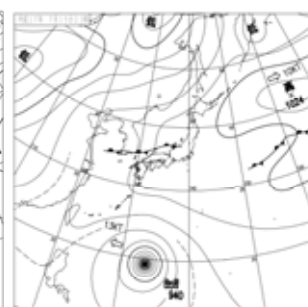


図 3 2005 年 7 月 15 日 21 時の地上天気図

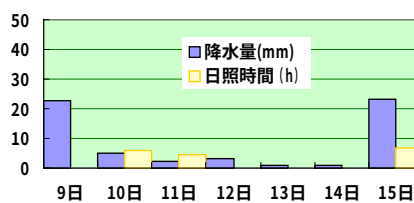


図 4 宇都宮の降水量と日照時間 (2005 年 7 月)

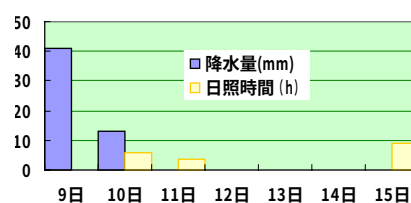


図 5 東京の降水量と日照時間 (2005 年 7 月)

梅雨前線が停滞する場合には前線付近では曇りや雨の天気が多くなります。ただし、雨雲がいつ頃、どのあたりを通るかによって雨か曇りかに分かれるため、前線活動の強弱の変化や前線上に発生する低気圧の動向を見きわめる必要があります。今回の事例のように、梅雨前線の活動が次第に弱まって消滅するような場合には、雨雲が通過する日時と範囲（広がり）を正確に予想することは特に難しくなります。

【9月の週間天気予報の利用にあたって】

太平洋高気圧に覆われる日が多い 8 月に比べて、9 月は低気圧や前線が日本付近を通りやすくなります。低気圧が発達しながら通った後は、北の冷たい空気を持った移動性高気圧に覆われるため、晴れても日中の気温は 8 月ほどには上がりにくくなります。また、晴れた夜は放射冷却現象の効果が強まって翌朝の最低気温が下がりやすく、内陸地方の特に盆地で顕著になります。

図 1 は 2001 年 9 月の東京と長野の気温経過です。9 月の中旬までは東京、長野とも最高気温が 25℃～30℃の日が続いていましたが、21 日から 23 日にかけて急激に気温が下がり最高気温が 20℃を下回りました。特に長野の日最低気温はそれまでの 20℃近くから一気に 6℃近くまで下がりました。

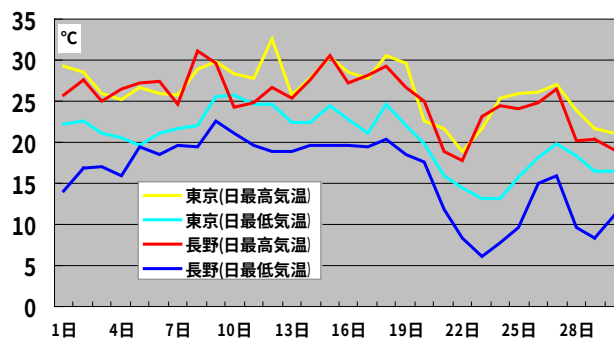


図 1 2001 年 9 月の気温経過

夏の暑さから開放されて過ごし易くなりますが、暑さになれた身体にとっては、急激な気温の変化は体調を崩す原因ともなります。週間天気予報では、天気他に最高気温、最低気温の予報も行っていますので、体調管理などの参考としてもご利用下さい。